



シネマネキ



2011年7月 創刊号
抜粋版

cinemaneki

ママシネマ『冬冬の夏休み』

メディアセブンに勤めているひぐを中心に、上映作品の話が盛り上がるかと思いきや、いざとなるとアジア映画には漠然としたイメージしかなかった3人。

チラシを見ながら、断片的な記憶を元に、上映作品に想いを馳せました。

しづ

『冬冬（トントン）の夏休み』って、冬なのに夏休みなんだね（笑）なんか、名前の響きで、どうしてもパンダが連想されてしまうよ…。

しづ

あっそうか。台北の夏休みの日々…。

ひぐ

なんか淡々と日々が描かれて、子供の目線から見た大人たちのいざこざが描かれていたりするんだよ。

しづ

大人たちはいざこざがあるんだ。

よね

まあホームドラマの定番だよ。

しづ

子供といえば、今度、九州新幹線ネタで『奇跡』が公開だね！あれも子供たちが、大人の事情で離れ離れになったんだよね。で、これはオチがあるの？

ひぐ

わかりやすいオチはないんじゃないの？アジア映画には、オチを求めないほうがいいよ。

よね

終わった後に、冬冬（トントン）はこんな大人になるのかなあ、って思いを馳せる感じじゃない？

しづ

アジア映画って、ジャッキー・チェンしか見たことないけれど、あとは歴史モノかな。

よね

ああ、そういうのは日本でいえば、チャンバラとか時代劇かな。

しづ

そういえば私はアジア映画では、昔の格好したものしか見たこと無いわ。

よね

やっぱり豪華な大作の方が売れるから、海外に流出しやすいのかな？そうじゃなくて日常を描いたものも、いっぱいあるけれど。

しづ

アジアの中では見られているのかな？

よね

きっとそうだよ。

ひぐ

チャン・イーモウとか、日本で話題になった頃は日常を描いたものが少し流行ったよね。空
気映画みたいな感じ？田舎の風景の長回しだとか。

よね

都会の人が撮ったのかな？

ひぐ

そういうことかもね。

[赤ちゃんを連れて映画を楽しもう！ママシネマ](#)

[『冬冬の夏休み』](#)

どの作品も興味深いタイトルで、話が弾みます。家族のことを撮影するお父さんの姿を思い出したり…。街やそこに暮らす人々の様子を残した映像は、時の流れと共にきっと財産になることを、震災後のいま感じずにはられませんでした。

しづ

これは全部やるの？

ひぐ

映画保存協会さんは、一般の家庭にあるフィルムを保存したり、上映したりしているんだよ。

しづ

へえ～。新フォード自動車の初乗り！乗りたいーい！！

よね

フォードだよ。1929年。

全員

すごいね～。

ひぐ

きっとすごい誇らしげな顔をしているんだよ。

よね

どれだけ排気ガスがすごいのか？っていうのと、どれだけの音がするのか？が、気になる。

しづ

音、すごいよね～。ああ、でも無声だ！

W8ってカメラがあるの？

よね

あるんだよ～。一種の8ミリカメラかな？（詳しい方がいたら教えてください！）

ひぐ

後は…、高木家の新建築？湯島の味噌屋さんが、高木さんで、フォードも買ったんだね。

しづ

さすが、湯島！山手線の内側は高台なんだよね。で、山手線からがかなり下がって沼だったんだって。お百姓さんがいて、湯島の方には殿様や商人がいたんじゃないの？

ひぐ

1930年代の東京の街並が見られるってことだ。

あっ、なんかおまけ上映があるよ。

しづ

建造物との対話（笑）

よね

工事現場を撮っている映像って多いみたいね。

しづ

残すため？なんのためなんだろう？今でもそういう仕事ってあるんだよね。無くなる前提だからかな？

よね

でも建築って、街並を作ることもあるし、人の生命を支えるものでもあるし、相当重要なんじゃない？後々検証するとか…。

ひぐ

何十年たったら、映像も文化財になるからね。

よね

景色は変わっちゃうしね。

ひぐ

住んでいた所の映像があるって、いいよね。自分の（住んでいた所）も観たい。

よね

それこそ、空襲とか天災とかあったら、全部なくなっちゃうかもしれないもんね。

しづ

でも、家に当たり前の様にフィルムがあった時代が、つい最近まであったんだよね。8ミリのカメラとか、写真とか。

よね

みんな残したかったのかな。（カメラが）なくても家族で写真館に行っていたもんね。

[文京映像史料館 巡回上映会](#)

[フィルムに残る文京のくらし vol.002 本郷・湯島篇](#)

本の上の映画館 Smile

<喜劇王>と呼ばれた3大スターについて、今まで知らなかったことも発見し、興奮気味の3人。コメディの魅力とは、こんな風にみんなで驚いたり、それについて話したりすることにあるのかもしれない。

しづ

『smile』っていうテーマなんだ。

よね

ね。『smile』っていう曲があるじゃない？

しづ

た〜ら〜ら、ら〜らら〜ら♪

よね

そうそう、その作曲がチャップリンなんだって。

しづ

えー！！すご〜い！！

ひぐ

作詞じゃなくて、作曲！？

よね

チャップリンは作曲家でもあったらしいよ。『モダンタイムス』のラストに流れて、その後、シナトラとか、いろんな歌手がカバーしたって。

ひぐ

監督もして、出演もしているし、すごいね！

しづ

そうなんだ〜。うわー、改めて聴きたいわあ。

よね

でも、この企画のすごい所は、そういう有名な作品は扱わないところだよ。チャップリンが初めて出演した作品って、あんまり大きな役じゃないみたいだし。それにしても、チャップリン、キートン、ロイドの3代喜劇王が揃い踏みだね。

ひぐ

1914年の作品って、結構前だね。

よね

結構前だよ。この3人は無声映画の時代に人気に火がついて、トーキーが主流になって、それぞれ苦労している世代だからね。

ひぐ

苦労したんだ…。

よね

キートンが＜偉大なる無表情＞といわれたのは有名な話で、顔に感情を出さずに体を張ったドタバタ喜劇が面白かったんだけど、「声と顔が合わない」って最初は言われたらしいよ。

しぶ

かわいそー！！

ひぐ

え～。

よね

その後ちゃんと、仕事はあったらしいけれど。

しぶ

ロイドさんは、どんな人なの？

よね

ロイドは黒縁のまんまるメガネがトレードマークだった人。

ひぐ

チャップリンはヒゲとか、みんな何かポイントがあるね。

よね

無声だった代わりに、あったのかもね。

しぶ

みんな、名前がタイトルになっているね。

ひぐ

いまでいったらアイドルみたいな感じかな？

よね

昔は、みんな映画館に笑いに行ったんだよね。きっとテレビもなかったし。

しぶ

チャップリンって、アメリカ人なのかな？少しイメージ違う感じだけど....。

よね

イギリス人みたい。2歳の時に両親が離婚したみたい。お母さんは歌手で、病気で舞台に立てなかった時に、子供ながら代役を努めたのがキャリアの始まりだって。

しぶ

血筋だね～。

ひぐ

喜劇王の3人だと、やっぱりチャップリンが一番ブラック・ユーモアな感じだね。

よね

うん。で、キートンはドタバタとスピード感のアクション系で、ロイドは演技のうまいコメディアンかな。

しぶ

年は違うの？

よね

違うとは思うけれど、同時代に活躍しているよね。

| 検索 |

あー、やっぱりみんな近いね。でも、チャップリンが一番年上。しかも88歳まで生きているよ。

しぶすごい！やっぱ<笑い>の力だね！！

[本の上の映画館 Smile \(though your heart is aching\)](#)

太郎の愛した映画たち

上映作品の予告編をYouTubeで発見し、観ながら当時に思いを馳せる3人。

学生時代映画を学んでいた<よね>は、上映作品の幅広さに興味をそそられ、美術を学んでいた<しづ>は、岡本太郎と映画との意外な繋がりに驚きました。

しづ

全部で7作品の上映だ。ゴダールに、日活、大映！

よね

どれも結構いまの日本にとってタイムリーな内容だよね。

しづ

チャップリンの時も思ったんだけど、長い年月を経てまた問題意識は変わるのかな？それで良いものは残っていくというか…。

よね

そういえば最近「自然回帰と技術や未来に向かう思考は、世紀の始まりと終わりで違う」とか言っていた人もいたな…。

しづ

そういう風にして恐怖も回って、予言とかが生まれるのかしら…。

ひぐ

岡本太郎と東郷青児が特別出演している映画って貴重だね。

しづ

出ているの？すごーい。

よね

渡辺美佐子も出ているよ。

ひぐ

小沢昭一も！

よね

60年代の日本映画の歴史もわかる特集だなあ。

ひぐ

私は全部観たことない。

しづ

私も。

よね

私は『ウィークエンド』だけ。太郎さんが活躍した時期って60年代だけ？

しづ

一番活躍したのは70年代かな？万博とかね。

ひぐ

なんか60年代後半から70年過ぎにかけて、画風が変わったって言われているから、この映画たちにも結構影響を受けたりしているんじゃないかな？

『宇宙人東京に現わる』っていうのもあるけど…。

よね

これ、すごいね。

しぶ

(岡本太郎が) 宇宙人のデザインやったんだって。

よね

へ～。あっ、YouTubeで予告編が見れるよ。

— みんなで観る —

ひぐ

色彩指導って書いてあるけれど、着色した映画なのかな？

しぶ

これだよ！このヒトデみたいなの！

ひぐ

宇宙人は日本人に移り移ったんだ！

しぶ

予告編、長くない？

よね

あー、来たあ。

しぶ

やばい！

ひぐ

これ、模型かな…。

よね

<総天然色>って誇らしげなナレーションだから、着色じゃないね。ってことは、どういう色を画面に配していくかのアドバイスをしたのかな？

— 予告編映像 終了 —

よね

美術のアーティストで、映画好きで有名な人っている？

しぶ

有名な人はあまりいないけれど…。でも太郎さんと映画っていうのも、あまり聞いたこと無かったな。土器とか祭りとかは、よく取り上げられているけれど。

ひぐ

でも50年代に映画批評をしていたって書いてあるね。

しづ

ね。ファンタジーじゃないけれど、見えないものを作るみたいなところに興味があったのかな。

よね

とは言いつつ、ドキュメンタリーも結構観ているね。でも、太郎さんらしいか。

しづ

人も観ているんだよ！

よね

世界や社会についてとかもね。

ひぐ

そういえば上映時間が12時半からって回もあるね。

よね

結構ちゃんと、ご飯を食べてから行った方がいいね。

しづ

美術館での上映だしね。

[太郎の愛した映画たち](#)

[岡本太郎生誕100年記念](#)

『ほら男爵の冒険』 @ cinecafe soto

食事付きのユニークな上映会を定期的に行っている、cinecafe sotoさんへおじゃましてきました。地下への階段をおりると、右手にカフェ、左手に上映スペースがあります。後ろの小さな部屋には35ミリフィルム映写機を発見！巻き取りをするための機械を初めて見ましたが、円盤のように大きく、だいぶ存在感がありました。

今回観た作品は『ほら男爵の冒険』

アニメーションと実写が重なった、幻想的な作品です。

監督のカレル・ゼマンは、チェコ・アニメーション代表作家のひとり。ヤン・シュヴァンクマイエルも同じく代表作家ですが、ゼマンも様々な技法を使いながらSF物語を中心に作品を発表してきたようです。SFものといえばCGが駆使されているイメージを持ちますが、この作品は手づくり感あふれる『合成』がとてもかわいらしく、こだわりが感じられました。

すこしセピアがかった色合い、異国の地の華やかな模様、月面から海底までの壮大な冒険。さらに、馬に乗ったまま海に逃げたり、魚のお腹の中に捕われてしまったり…。美しい切り絵や、コマ撮りアニメーションと、お姫さまや冒険家、詩人などの役者たちが実像で登場し、その掛け合いも観どころのひとつでした。

上映後の『限定プレート』は、物語の舞台のひとつとなったトルコがイメージソース。素揚げのサバ、オリーブ、タマネギなどがはさまれたフランスパンのサンドイッチと茄子のひき肉はさみ焼きが出ました。

映画は食事のシーンがあまり出てくるものではありませんでしたが、こうして作品をイメージソースとしたご飯をいただくと、全身をつかって物語を堪能している気分になりました。そしてすごくおいしかったのですが、この上映の席でないと食べられないのが、またニクイですね！ごちそうさまでした。

映画が終わったあとにすぐ席を立つのではなく、こうやって作品を観た席で食事をしながら色々と話ができる時間はとても新鮮だったので、ついつい長居をしてしまいました。

cinecafe sotoさん、ありがとうございました！（ひぐ）

上映会場のcinecafe sotoは、駅から程近い元倉庫を改装してできたカフェ。35ミリの映写機があり、毎月他ではなかなか見れない映画を上映しています。上映後には、映画にちなんだ食事プレート付き。食事をしながら、映画の感想が盛り上がります。誰かと映画を観たくなったとき、ぜひ行ってみてください。

[cinecafe soto](#)

cinemaneki 2011年7月 創刊号（抜粋版）

<http://p.booklog.jp/book/31601>

著者：cinemaneki

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/cinemaneki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/31601>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/31601>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.